

## **卷末資料 3**

**3-1 : 昨年度事業成果活用状況調査結果**

**3-2 : 昨年度事業成果活用事例報告  
(群馬、広島)**

		平成29年度「次世代薬剤師指導者研修会」の受講者が研修会課題として立案した研修計画案についての、都道府県薬剤師会における取り組み状況について(該当するものに○。複数回答可)					実施					予定				
		①計画案を踏まえた取り組みを本年度実行予定(実行した)	②計画案を踏まえ、来年度に実行予定	③来年度以降の実施に向けて検討中	④取り組みの必要性は感じているが、現時点では検討していない	⑤計画案に関与していないため、検討していない	地域医療体制	災害時対応	臨床検査値の活用	ポリファーマシー対策の理解と実践	薬理・薬物動態学の理解と活用	地域医療体制	災害時対応	臨床検査値の活用	ポリファーマシー対策の理解と実践	薬理・薬物動態学の理解と活用
1	北海道	●		●			●		●	●	●					
2	青森		●										●	●		
3	岩手	●					●	●		●						
4	宮城			●									●			
5	秋田	●		●			●						●	●		
6	山形	●							●							
7	福島			●												
8	茨城	●							●							
9	栃木	●													●	
10	群馬	●										●			●	
11	埼玉			●							●	●		●		

平成29年度「次世代薬剤師指導者研修会」について (該当するものに○。複数回答可)				平成29年度「次世代薬剤師指導者研修会」に関するご意見やご感想、また平成30年度同研修会に関する期待・ご要望など、ご自由にご記載ください。
①研修会の趣旨(次世代の育成)のとおりに、都道府県薬剤師会として有益であった	②受講者本人にとって有益であった	③わからない	④その他	
●	●			本会では、特に薬業連携について大きな成果があったので、引き続き次年度以降も本研修会を継続して開催していきたい。
		●		-
	●			-
	●			「次世代薬剤師指導者研修会」については、受講者から理事者に対して研修内容についての報告会を実施した。会員に向けての伝達講習による情報の共有についてはその重要性を認識したものの、年次予算及び担当委員会の選定がなされていなかった、また病院薬剤師会担当との協議が実施できなかった等の理由により研修の開催には至らなかった。今期参加する当会理事2名と合わせ開催に向け検討していきたい。 当会では年次に常任理事会において当年の年次事業計画を作成し、承認された目標を実現するため担当委員会が必要な研修及び研修方法を立案・実施している。(別添資料参照) 地域包括ケアシステムの構築が喫緊の課題となり、その体制について複数の関連団体が協力を謳い研修会の必要性を認識していることから、各地区薬剤師会における共同参画の研修会開催も盛んである。 また、東日本大震災の被災県である当県は、早期より災害時の県内医療団体独自の協力体制「J-MAT宮城」が結成され、県内開催の学会において団体間の知見、技能の共有化が図られている。震災から8年が経過した現在、記憶の風化、あるいは年少者や異動による震災未経験者に対する教育の重要性が叫ばれており、現地支援薬剤師として災害時のトリアージや服薬支援、服用薬剤の同定について、支援スキームの見直しについての研修が組まれていく動きとなっている。 保険薬局勤務経験に併せ対象を分けて実施している研修会では、基幹病院で処方せんに臨床検査値の併記が実施されていることから、数値の示す意味と病態、活用方法についてカリキュラムに反映している。 ポリファーマシーの問題点は、在宅医療を主担当とする委員会や、保険調剤を担当する委員会でも随時各論で取り上げている。 薬剤師として自身の薬学教育に対し随時補完すべき薬理・薬物動態学の最新知見について会員に研修する人的・時間的・質的な制約を踏まえ今後検討していきたい。 最後に要望として、全会員が滞滞無く共有すべき伝達講習については、一律の内容で使用・複製が可能なPPT等の資料についてご検討いただきたい。
●				-
●				・組織:今年度は初回であり継続事業になるのかも不明であったため、研修計画が出来上がった中で組織・開催日程などどこに位置付けるかのとまどいがあった。 ・研修会:次世代を担う薬剤師を中心とした組織を立ち上げ研修会企画・運営を行ったところ、研修会にはいつもより若い薬剤師が多数集まり活発な討議が行われ、企画の意味が感じられた。 ・問題点①:薬剤師会の会員は管理薬剤師が多く若い年代が不足している。県薬としてこれから人材育成するために、非会員の取り扱いを検討していく必要性を感じた。 ・問題点②:病薬からは日当等の関係から県薬会員でかつ病薬会員である人の選出が必要で、該当する若い薬剤師が少なくこのまま企画継続されても病薬の選出できる人材が少ない。 ・要望:日病薬の方からの協力が欲しい。県病薬会長などは何も知らない状態。
	●			-
●				-
●	●			・今、薬剤師に求められていて、取り組む必要のあることが研修で明確に示されており、今後の取り組む点分かりやすかった。 ・それぞれの分野での素晴らしい活躍をされている先生方にご講義いただき、学ぶことが多く刺激になった。 ・2日間の研修で学んだ災害、ポリファーマシーの中から課題を1つ選択して県に持ち帰ったが、選択しなかった課題が受講だけで終了になってしまいがもったいない気がする。
●				近県でのグループ形式であったので、情報交換など長期にわたって有益になった。その時その時の求められる職能に対する研修を次年度でもよろしく願います。セルフメディケーション、予防など(窓口で求められる内容)
	●			他県との合同開催も検討しているが、足並みがそろわず難しいと感じています。病院薬剤師会との連携についても、埼玉県では可能でも、他県では「難しい」と言った声もあがっているのが現状です。まずは県内開催に向け、実施予定で次年度予算を計上しました。

		平成29年度「次世代薬剤師指導者研修会」の受講者が研修会課題として立案した研修計画案についての、都道府県薬剤師会における取り組み状況について(該当するものに○。複数回答可)					実施					予定				
		①計画案を踏まえた取り組みを本年度実行予定(実行した)	②計画案を踏まえ、来年度に実行予定	③来年度以降の実施に向けて検討中	④取り組みの必要性は感じているが、現時点では検討していない	⑤計画案に関与していないため、検討していない	地域医療体制	災害時対応	臨床検査値の活用	ポリファーマシー対策の理解と実践	薬理・薬物動態学の理解と活用	地域医療体制	災害時対応	臨床検査値の活用	ポリファーマシー対策の理解と実践	薬理・薬物動態学の理解と活用
12	千葉			●							●			●	●	
13	東京			●							●	●	●	●	●	
14	神奈川				●											
15	新潟	●	●			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
16	富山	●		●		●		●	●	●		●				
17	石川	●										●				
18	福井	●				●										
19	山梨	●											●			
20	長野				●											
21	岐阜				●						●	●				
22	静岡	●									●	●	●	●	●	
23	愛知	●	●				●	●	●	●		●	●	●	●	
24	三重	●				●	●		●							
25	滋賀	●										●				
26	京都	●						●	●							

平成29年度「次世代薬剤師指導者研修会」について (該当するものに○。複数回答可)				平成29年度「次世代薬剤師指導者研修会」に関するご意見やご感想、また平成30年度同研修会に関する期待・ご要望など、ご自由にご記載ください。
①研修会の趣旨(次世代の育成)のとおりに、都道府県薬剤師会として有益であった	②受講者本人にとって有益であった	③わからない	④その他	
	●			とても有益な研修会であり、今後の薬剤師として職能を発揮するため必要と感じます。しかし、県単位・地域単位での開催が困難な状況も予想されます。 (とくに、参加者について次世代を担う薬剤師を考えるとチェーン薬局の勤務者が多い等)
●	●			-
	●			災害時における医療提供体制と薬剤師の役割・活動における、県薬・病薬連携はもとより、隣県同士のつながり・協力も必要となってくる。その意味でも今回のワークショップは貴重な意見交換の場となった。
●	●			・多岐に渡る内容を習熟でき参加者自身としては非常に成長できた研修会だったと感じた。しかし本研修内容を地域に落とし込んでの研修会を立案する課題については少し戸惑いを感じた。 次年度予算・事業計画がすでに決まっている段階で、そのなかに新たな研修を組み込むのは現実的でなく苦慮した。 ・2日間の研修において、個人としても非常に研鑽できる研修会であったと思います。また、地域でもしっかりとこれらを伝達し、各地域で取り組まなければならないと感じた研修会でした。 次年度の要望として、各地域で薬局薬剤師と病院薬剤師が合同で事業(研修会)を行うことで、その結果が、薬剤師(日薬)としてのエビデンスとして発出できるようなものが行えるとより有意義ではないかと思いました。
●	●			研修会受講者は、県薬生涯教育研修委員会の委員であり、平成30年4月に委員会で研修会のテーマを検討する際には、「ポリファーマシー対策」「臨床検査値の活用」など提案しており、指導者研修会を活用できたと考えられる。 しかしながら、一緒に参加いただいた病院薬剤師の先生とは受講後、情報交換等を行うことができなかったため、有効に活用することができず残念に思っている。
●	●			施設間や医療者間の連携の重要性が以前よりも強く求められるようになってきている。今回協働して研修会を企画したことにより、互いの業務を知り、共通すること、異なることを理解し、それぞれ何ができるかを考えることが出来た。また、勤務先が異なる薬剤師が集い、将来の職域開拓について考え、次世代に繋ぐ礎になったと言える。地域包括ケアの実現に向け、まずはチーム医療の一員として顔の見える薬業連携をすすめることが大切である。
			●	研修会の内容が決定した上で案内がほしい。内容をみて関係する委員会から出席者を選定したい。また、次世代の若手だけでなく、役員にも研修内容や意図を理解してもらうために出席してもらったほうが良いと思う。 各薬剤師会で研修を実施するよにというのであれば、日薬から事業費を充ててもらいたい。
●	●			-
	●			最終目的が研修会の企画、立案ということであれば、2日間の研修会内容の再検討を望みます。もう少し「企画する」ということの研修内容を組み入れて欲しかった。
●	●			-
			●	テーマ選択が押しつけがましいと思われました。 研修内容に関しては満足しています。
●	●			-
●	●			・開催時期が2月の真冬で天候の問題や感染流行時期もあり1人で薬局経営している者にとってはかなり不安がありました。実際2日目の終了時は東北方面の新幹線運休が相次いで帰りが大変だったと話で聞いております。開催時期は、冬季を外し関西圏、関東圏など小エリアごとの開催でも良いのではないかと話も出ていました。 ・次世代の薬剤師という観点で40代までという年齢制限があったかと思うが、実際は想像より年齢層が高いと感じた。 思い切って30代までとするなど若手を中心にしても良いかもしれないと感じた。 地域毎のグループワークは交流も兼ねることができて良かった。 ・東京会場において、他府県の先生方と交流をしながら、二日間じっくり詰まった研修スケジュールをこなすことは、今までにない経験で、普段とは違う環境に身をおいてこそその集中力で研修が出来たと思っております。災害、ポリファーマシー、臨床検査値など、それぞれで著名な先生による講義、グループワークが両日で出来るのも日薬というスケール感だからこそだと思います。指導者を育てる研修会ということで、次は滋賀県に持ち帰っての研修会を成功させないことには、滋賀県薬剤師会にとって有益であったとは言えないので、平成30年度に実施する研修会において、その時得た物を活かせる研修会にしたいと考えております。
●	●			地方区分でグループを作りSGDを行ったが、地域はバラバラでもよかったと思います。確かに地域医療体制や災害時対応などのテーマに関してのディスカッションには有効かもしれませんが、いろんな地域の方とディスカッションした方が異なった情報や視点が得られたかもしれません。次回はグループを地方ごとにしないで、地域を超えたグループを組んではどうかと思います。

		平成29年度「次世代薬剤師指導者研修会」の受講者が研修会課題として立案した研修計画案についての、都道府県薬剤師会における取り組み状況について(該当するものに○。複数回答可)					実施					予定				
		①計画案を踏まえた取り組みを本年度実行予定(実行した)	②計画案を踏まえ、来年度に実行予定	③来年度以降の実施に向けて検討中	④取り組みの必要性は感じているが、現時点では検討していない	⑤計画案に関与していないため、検討していない	地域医療体制	災害時対応	臨床検査値の活用	ポリファーマシー対策の理解と実践	薬理・薬物動態学の理解と活用	地域医療体制	災害時対応	臨床検査値の活用	ポリファーマシー対策の理解と実践	薬理・薬物動態学の理解と活用
27	大阪			●												
28	兵庫	●					●	●		●						
29	奈良	●								●					●	
30	和歌山			●			●	●	●	●						●
31	鳥取		●									●				
32	島根			●			●					●			●	
33	岡山			●											●	
34	広島	●								●						
35	山口	●						●			●	●	●	●	●	
36	徳島	●					●			●		●	●			●
37	香川1	●		●				●							●	
37	香川2		●								●					
38	愛媛1	●	●					●	●							
38	愛媛2	●	●	●			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
39	高知	●									●				●	●
40	福岡	●								●	●					●
41	佐賀			●							●	●	●	●	●	●
42	長崎	●	●											●	●	●
43	熊本	●						●		●						
44	大分1	●						●				●				
44	大分2			●							●	●	●	●	●	●
45	宮崎	●		●						●	●	●	●			●
46	鹿児島	●					●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
47	沖縄	●								●						

平成29年度「次世代薬剤師指導者研修会」について (該当するものに○。複数回答可)				平成29年度「次世代薬剤師指導者研修会」に関するご意見や感想、また平成30年度同研修会に関する期待・ご要望など、ご自由にご記載ください。
①研修会の趣旨(次世代の育成)のとおりに、都道府県薬剤師会として有益であった	②受講者本人にとって有益であった	③わからぬ	④その他	
	●			-
●				-
	●			研修会に関しては非常に有意義であるが、都道府県単位で同様の研修会を実行するのであれば、この研修会の趣旨を都道府県薬業に十分に周知・理解してもらうための取り組みが併せて必要だと思われる。
		●		・元々自県薬における研修は研修委員会が担当で行っているが、そこにこの次世代薬剤師指導者研修会で行ったような災害対策、ポリファーマシーなどの内容は必要性に応じて行ってきた。そのためこの研修会を意識してテーマ選定を行ったりはしていないので、あえてこの研修会後に追加して行った内容等はありませんでした。それが最初の質問における回答の結果につながっています。 ・また、次世代薬剤師指導者研修会という名称の研修会で、あえてこの2番目の質問にあるようなテーマにこだわる意味合いがよくわからない。しかもそれを自県薬に持ち帰って同テーマで研修を行わせることもよくわからない。次世代のリーダー的な薬剤師を育てるという意味なら別にテーマにこだわる必要もないのかなと思う。この「次世代指導者研修会」という名称と研修内容が一致したものでないただただ集まってお祭り騒ぎをしているようにしか思えない。主旨、目的、方向性などが少し不明確もしくは我々に伝わっていないのではないかと感じてしまう。
●				-
●	●			-
		●		-
●				-
●	●			-
●				平成29年度の研修会では、ポリファーマシー対策に必要な薬理・薬物動態学の知識や活用方法について非常に勉強になった。ポリファーマシー関連については、今後も継続して研修内容に加えていただきたい。また、地域ケア会議に必要な知識やノウハウについても取り上げてほしい。
●	●			非常に充実した研修会であり、今後更なる発展をお願いしたいと思います。 ご準備頂いた関係者の方々には感謝申し上げます。 研修会後に懇親会があれば、全国の方々と繋がることができてよかったですように思います。参考にさせていただきます。
●	●			-
●	●			受講者の立案計画が単年で終わらないように継続した研修をお願いしたい。
●				-
●	●			-
●	●			参加により全国の薬剤師と交流が深まり刺激を受け、意欲が高まったので多くの若手薬剤師が幅広く参加すること「2日間みっちり時間がとられており、とても中身の濃い研修であった。」との報告を受けた。また、私たち薬剤師をとりまく社会的情勢を再認識した上で、地域の特性に応じた地域包括ケアシステムを構築するために、これからの薬剤師に何ができるのか、そのためにまず取り組むべきことは何なのか、を学べ、また討議でき良い機会となった。また、各都道府県で、マニュアル整備状況や薬業連携、チーム医療連携の状況などにも大きな差があることを目の当たりにした。 ”次世代薬剤師”の指導者研修会ということで、さらに年齢層を絞ったグループに分けていただけると、今まで学んできたことに差が減り、より話し合いがしやすいと感じた。さらに、各年代における考え方の違いがはっきりし、目標が立てやすいと思った。 今後、この次世代薬剤師指導者研修会の内容を県薬業員へ伝達し、修得を目指すことになるが、時間的な制約もあり効率的な方法が求められる。他県の成功事例が日薬で把握できていれば教えてほしい。また今後、さらに参加者がステップアップを実感できる内容となることを期待する。
●	●			-
●	●			-
●	●			-
	●			とても有益な研修内容でした。なかなか研修会ができずにおりますが、来年度にはとも思っております。
●	●			研修会実行委員役員、並びに講師の先生方に深く感謝申し上げます。参加した薬剤師も有意義な研修会に満足していたようでした。研修会報告書におきましては、具体的な研修内容まで詳細に報告して頂き、大変参考になりました。今年度も宜しくお願い致します。
	●			-
		●		計画を各都道府県において実践することが研修会の目的であると考えているが、事業としての目標値はどれぐらいであったのか？昨年度の実施率を踏まえ、平成30年度の研修は、参加者が立案した計画が「実施できる支援」について、薬剤師生涯教育推進事業としてどのように取り組む予定なのか？

平成29年度  
「次世代薬剤師指導者研修会」  
を受けた  
都道府県薬剤師会での取組事例

群馬県薬剤師会  
常務理事 / 教育研修委員会委員長  
高野 由博

1

研修会テーマ及び選択理由

- 病院や地域におけるチーム医療に貢献する薬剤師を育成するために、ポリファーマシー対策が重要と考えた。
- 群馬県においてポリファーマシーに焦点を当てた研修を企画したことがなかった。
- 災害医療体制については、県の委託事業として継続研修会を企画運営していた。

3

平成29年度  
「次世代薬剤師指導者研修会」  
テーマ及び当県薬での実施テーマ

H29「次世代薬剤師指導者研修会」テーマ	実施テーマに○
ア) 薬剤師を取り巻く社会的情勢と医療等提供体制における役割	
・地域医療体制	
・災害時対応	
イ) 病院や地域におけるチーム医療に必要とされる医療薬学的知識・技術	
・臨床検査値の活用	
・ポリファーマシー対策の理解と実践	○
・薬理・薬物動態学の理解と活用	

※災害時対応に係る研修については、各県独自の取り組みが多数あることから、今回の事例報告の対象としない。

研修会の概略

- 研修会名：薬連携生涯学習研修事業  
ポリファーマシー対策に向けて～必要な視点と考え方～
- 参加者数：52名（薬局36名、病院15名、大学1名）
- 研修会の趣旨・目的等：  
医療技術の高度化・専門分化が進展する中、より良い医療を患者に提供していくため、病院や地域におけるチーム医療に貢献する薬剤師を育成する等の生涯教育が重要であることから、その教育を担う薬剤師を育成することを目的としている。

4

## プログラム

- ①群馬県病院薬剤師会より取り組み紹介(40分)
- ②群馬県薬剤師会より取り組み紹介(40分)
- ③栃木医療センター 矢吹拓先生ご講演(180分)
  - 総論・アイスブレイク
  - 症例検討(SGD)「この症例に薬剤師として何ができるか」
  - 薬剤師に期待していること
  - 症例ロールプレイ(信念対立を考える)
  - 患者ヘルスリテラシーと情報共有レクチャー
  - 明日からできるアクションプラン(World café)
  - 総括

5

## 研修会の企画にあたって

次世代研修会で立案した通りに内容を進めることができた。当初9月を企画していたが、県薬の事業が多く開催が年明けになった。午前から開始し夕方まで一日研修する形を検討していたが、講師予算も限られなかった。総論的な内容は簡略化し、取り組み紹介やディスカッションに重点を置いた。

そもそも県薬事業が多かったため、なぜ行うか説得するのが県薬・病薬共に苦労した。当初は県薬、病薬共同事業として協議がスタートしたが、病薬は予算的なことも影響し、開催されれば参加するというスタンスになった。県薬事務局に負担が集中した。県薬、病薬参加者比率も1:1ではなく結果として2:1になった。

6

## 研修会の企画にあたって

事前に事業計画として予算計画を立てていなかった。そのため、参加者より参加費(1,000円)を徴収し、運営費に当てるといった計画を進めた。

県の補助事業として申請し、「在宅事業推進におけるチーム医療に貢献する薬剤師を育成する」ということで補助金をいただくことができた。

次世代育成研修会に参加した病薬の先生のご協力もあり、老年病研究所付属病院研修室を無料でお借りできた。継続して借りることができるということも今後大きなメリットになった。

7

## 良かった点

- 病院薬剤師、保険薬剤師共に同じテーブルで症例検討を行うことで、相互における視野が広がった。
- ポリアーマシー対策について基本的な考えを知ることができた。
- ポリアーマシー対策は、ただ減らせれば良いという考えではないという衝撃的な話を聞いた。
- 予算持ち出しが39,646円で済んだ。
- 参加者より、次回も楽しみだという意見を多くいただいた。
- 研修会が意義深く成功したので、来年度の開催が当たり前のようになりつつあったのでは。
- 次年度予算に組み込むことができた。

8

## 反省点、今後の課題

- 予算的なことを病院薬剤師会にも十分理解ご協力いただいたが、次回以降共同開催できると良い。
- ポリファーマシー対策はコミュニケーションスキルが重要になるので、向上させるような研修もできると良い。
- 参加者がそれぞれの地域、病院にて、研修会を企画運営できるようにしてほしい。(学術委員、教育研修委員を参加者義務化の理由)

9

## まとめ

- **講師の選定が成功するために相当なウエイトを**取っている。栃木医療センターの矢吹先生に講師を依頼したことで、ポリファーマシーの研修会に慣れたいらっしゃるということ、話が上手であったので、とてもスムーズに進行ができた。**他県の研修事例を多く学び、活かすことが重要。**共有するシステムがあれば良い。
- これからの研修企画のため、または参加人数を固く確保するために**学術委員、教育研修委員を参加義務化にすることがよい**であろう。
- 補助金を調べ、申請できることはすべし。

10

## 研修会の様子



11

平成29年度  
「次世代薬剤師指導者研修会」  
を受けた  
都道府県薬剤師会での取組事例

広島県薬剤師会

次世代指導薬剤師特別委員会 副委員長  
荒川 隆之

1

研修会テーマ及び選択理由

病院だけ、薬局だけでは取り組むことが難しく、双方  
の立場で取り組みやすいテーマだと思っただけ

研修会プログラム

3

平成29年度  
「次世代薬剤師指導者研修会」  
テーマ及び当県薬での実施テーマ

H29 「次世代薬剤師指導者研修会」 テーマ	実施テーマに○
ア) 薬剤師を取り巻く社会的情勢と医療等提供体制における役割	
・地域医療体制	
・災害時対応	
イ) 病院や地域におけるチーム医療に必要とされる医療薬学的知識・技術	
・臨床検査値の活用	
・ポリファーマシー対策の理解と実践	○
・薬理・薬物動態学の理解と活用	

2

委員会組織にあたって

広島県薬剤師会 会長  
広島県薬剤師会 専務理事  
広島県病院薬剤師会 会長

以上 3名 に次世代研修会の趣旨を説明し、  
特別委員会を組織することの内諾を得る

広島県薬剤師会常務理事会にて

「次世代指導薬剤師特別委員会」を組織することが  
承認

4

## 委員会組織にあたって

その後、「次世代特別薬剤師委員会(仮)」に係る委員の推薦について(ご依頼)を広島県病院薬剤師協会長宛に送付

県薬・病薬 各3名ずつ 専務理事を含め7名で組織

担当役員 村上信行 (県薬専務理事)

委員長 平本敦大 (県薬理事)

副委員長 荒川隆之 (県病薬理事)

委員 今井圭介、大東敏和、竹本貴明、豊見敦

5

## 研修会実施に向けて

水平展開が目的のため、**支部担当者**を集めて研修会を行うことは決定

**県薬14地域 県病薬4地域**に区分されているため**各2名**ずつ支部担当者を選出してもらおうこととし、各支部長に趣意書を送付

選出後、趣意書のみでは趣旨が伝わらないと考え、各**地域**に赴き、各支部長・地域担当者へ**趣旨説明会**を実施

6

## 式次第

平成30年10月21日(日) 10:00～  
広島県薬剤師会館 2階在宅研修室、ホール

9:30～10:00	受付	
10:00～10:05	開会挨拶	
10:05～10:10	説明:次世代薬剤師特別委員会WGについて	(5分)
10:10～11:10	講義:ポリファーマシー対策に向けて～必要な視点と考え方～	(60分)
	講師: 広島大学病院 薬剤部 柴田 ゆうか先生	(50分)
11:10～12:00	昼食	
12:00～14:00	SGD:グループディスカッション1 ～ <b>服薬支援と必要な連携</b> ～	(120分)
	i) 処方監査や処方提案に向けた医療薬学的知識の充実	
	ii) 医療薬学的知識を背景とした重複投与・多剤投与回避のための手法を用いた一元的継続管理と医薬品の適正使用の確保に向けた取り組み	(10分)
14:00～14:10	休憩	
14:10～15:45	SGD:グループディスカッション2 ～ <b>地域で活かす方策について</b> ～	(95分)
15:45～15:55	地域に戻って、研修会を移行するには	
15:55～16:00	薬剤師生涯教育推進事業実施要項の説明	(10分)
16:00～16:10	閉会挨拶	
16:00～16:10	広島県薬剤師会 専務理事 村上信行	(5分)
16:10～16:30	休憩	(10分)
16:10～16:30	連盟フォーラム	(20分)
17:00～19:00	懇親会	

7

## 地域開催に向けて

SGD:グループディスカッション2

～地域で活かす方策について～

地域に戻って、研修会を移行するには

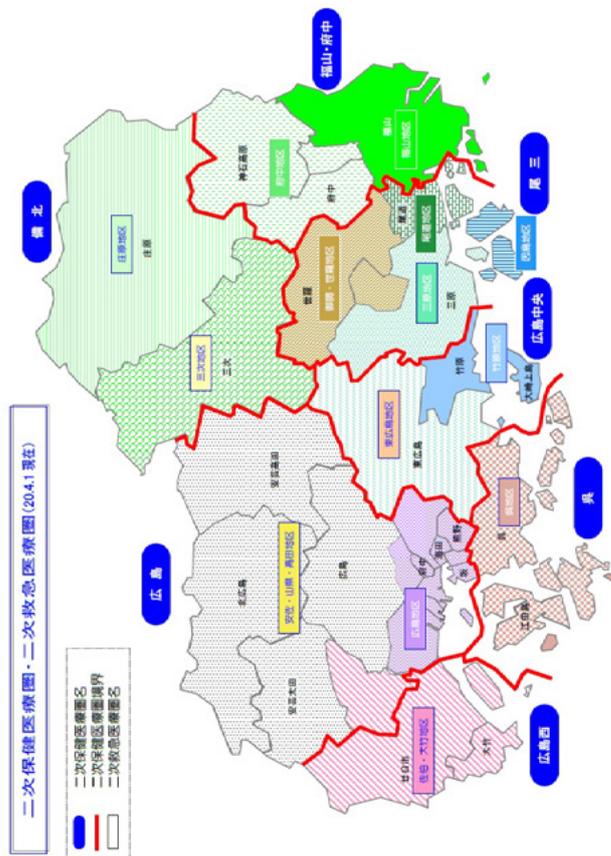
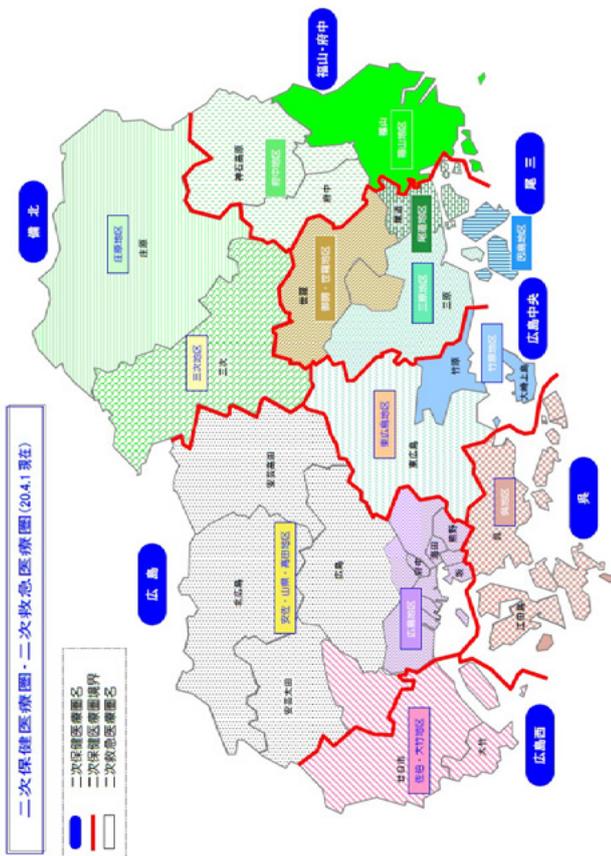
## 地域開催に向けて

薬剤師会は支部が多いため、医療圏域及び病院薬剤師会の支部を考慮してグループを構成

SGDの中で地域が広すぎたり、様々な理由で開催が容易ではないと判断した場合は**各自の判断でグループを細分化してもよいこととした**



## 懇親会







## 今後の展開・課題

- 単回で終わらないように、継続していくこと
- それぞれの地域によって差が大きい
- 各地域の報告会を実施する
- 委員・支部担当者を増やしていく



平成 30 年度 薬局ビジョン実現に向けた薬剤師の  
かかりつけ機能強化事業  
(平成 30 年度薬剤師生涯教育推進事業)

報 告 書

平成 31 年 3 月

公益社団法人 日本薬剤師会

〒 160-8389 東京都新宿区四谷 3-3-1

四谷安田ビル 7F

TEL 03-3353-1170 FAX 03-3353-6270